

東北大学オープンキャンパスで多賀城高等学校の生徒さんに特別講義を行いました (2016/7/27)

テーマ：災害科学，大学入試

場 所：東北大学災害科学国際研究所棟（宮城県仙台市青葉区）

7月27-28日、「東北大学オープンキャンパス」が開催されました。オープンキャンパスは、主に学部や大学院での教育・研究内容を高校生向けに紹介するもので、研究所の公開は行っていません。この度、日頃から連携を行っている多賀城高等学校（2016年4月災害科学科開設）からのご要望で、災害科学国際研究所においてオープンキャンパスとしての受入れを行いました。

同校からは、災害科学科と理工系進学志望の1年生約100名が訪問されました。まず、当研究所棟2階にある展示コーナーにおいて、展示されている調査用機器・資料・現地調査の写真などをご覧いただきながら、当研究所の設立から現在までの流れと、様々な分野での研究や調査がどのように行われているかなどについて、中鉢奈津子特任助教（広報室）が説明しました。その後、1階多目的ホールにて、当研究所の今村文彦所長と佐藤健教授、佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）が特別講義を行いました。まず、今村所長より災害科学国際研究所の概要や研究活動内容などについて詳しく紹介され、佐藤健教授からは「郷土の自然と歴史を理解することの重要性～防災学習のきっかけとしての地名の活用～」と題して模擬講義が行われました。また、佐藤翔輔助教は「災害科学国際研究所に入るには？」と題した講座を行いました。

講義にはクイズも盛り込まれ、参加した生徒さん達は、真剣な眼差しで受講していました。



今村文彦所長



佐藤健教授



佐藤翔輔助教



展示コーナー（中鉢奈津子特任助教）



会場の様子1（クイズ勝ち残り戦）



会場の様子2

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門），鈴木通江（広報室）